

Contents:

1. 症例登録状況
2. フォローアップ施設変更の手続きについてのご案内
3. 介入の進捗状況
4. 施設紹介

1. 症例登録状況

昨年12月末より参加施設の皆さまにはこれまで登録していただいた症例のデータチェックをお願いしておりました。皆様のご協力、誠にありがとうございます。

2013年1月27日現在、1104名をご登録いただいております。目標症例数の2分の1に近づいてきております（図1）。

データベースマニュアルの改訂が遅れ、皆さまにはご不便とご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。

2. フォローアップ施設変更の手続きについてのご案内

患者様の転院等により他施設でフォローアップされる患者様に関しましては、可能な限り本研究参加施設にご紹介いただくと助かります。それが困難な場合は周産期研究事業支援室にご相談いただきたいと思います。

3. 介入の進捗状況

本研究の介入施設群19施設では、各々の施設が立てた改善行動計画を実行し、半年以上が経過しました。現在、進捗状況を確認したり、計画を実行することにより新たに生じてきた（見えてきた）課題を明らかにしたり、今後に向けての話し合いを『フォロー施設訪問』という形で行っております。訪問は、本部のメンバーだけでなく、ペア施設の担当者や拡大支援班の数名で行っています。なかなか普段のメールのやりとりだけでは見えてこない実情も共有することができて、大変有意義な訪問となっております。今回のニュースレターでは、ペア施設である、名古屋第二赤十字病院および石川県立中央病院でのフォロー施設訪問（図2）の報告と感想をお届けしたいと思います。このペアでは施設担当者と看護担当者が両名が互いの施設を訪問することが可能であったため、情報交換しつつ、共感し合ったり、励まし合ったりすることができました。このように、施設担当者および看護担当者の両名がフォロー施設訪問が叶ったのは、19施設（9ペア）中、4施設（2ペア）のみでした。

図1. 出生月別INTACT対象登録患者数の推移

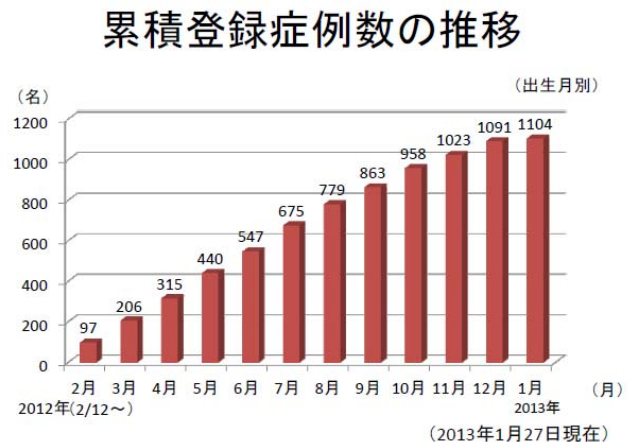


図2. 石川県立中央病院へのフォロー施設訪問（2012.12.7）

《ペア施設でお互いにフォロー施設訪問ができた施設からの報告・感想》

☆後藤美名子さん(名古屋第二赤十字病院NICU看護師)



11月14日にワークショップ半年後の経過報告を行いました(当院にフォロー施設訪問をしていただきました)。本部から西田俊彦先生、拡大支援班として熊大の田仲健一先生、ペア施設の石川県立中央病院から北野裕之先生と看護師の工藤淳子さんと4名の方々が訪問してくださる予定でしたが、さらに飛び入りで神奈川こども医療センターの豊島勝昭先生が入っていただき5名の訪問となりました。特に豊島勝昭先生は、「IVHを減らすための循環管理」のために施設見学に行った際、細かく管理方法を提示され、指導いただいた先生なので、自分たちの方向性が誤っていないかやや心配になりつつ報告をしました。当院からは医師2名、師長を含めた看護師5名が参加しました。西田俊彦先生からは登録済みのデータから、蘇生時の酸素濃度が高めであること、体温が低くなりがちであること、を指摘され、蘇生方法を見直すことにしました。当院のデータ分析から血流感染が多く、PIの留置方法の再検討したこと、感染の勉強会が始まったこと、施設見学でうかがった

広島県立広島病院のゾーニングを取り入れつつあることを報告しました。取り入れつつというのは現在当NICUは仮設棟に移転中で、なんとプレハブ2階建てでいかんともしがたい施設面の貧弱さがあるからです。循環管理では、動脈血圧中心の管理から静脈還流に重きを置いた管理に移行しようとしています。心エコーによるstress-velocityの評価方法に問題があり、十分な効果が出ているとはいえません。豊島勝昭先生には、移行がスムーズになるよう講義・指導をお願いすることとなりました。看護サイドでは、担当看護師が異動によって変わっており、現スタッフの看護師さんたちは模索を続けながらいろいろなマニュアルをつくってくれました。工藤淳子さんに見ていただきよい評価をもらって、彼女たちにはかなり自信になったようです。またせっかく作ったこれらを看護師さんたち自身が十分活用していないことがわかり、今後どう活用し、浸透させるかの検討も始まりました。

3月にワークショップを行いました。この後に仮設・本設の設計の会議、引っ越しの計画立案、9月に仮設棟に引っ越ししてやっと落ち着いてINTACTに取り組めてきています。しかし3月には再び本設への引っ越しがあり、今後も予定通りいかないのではと心配になる今日この頃です。

4. 施設紹介(県立広島病院)

今回は他施設の質向上の計画に施設見学の活動にも、ご協力いただいた県立広島病院になります。

1.施設名

県立広島病院 新生児科

2.規模

NICU9床、GCU18床

3.スタッフ

医師7名(新生児科医5名、レジデント2名)

看護師42名、看護助手5名、理学療法士、臨床心理士、臨床工学士、薬剤師、栄養士の出入りあり。

医師の当直は3-5回/月、当直明けは昼まで勤務

看護体制 3交代制(日勤/夜勤:NICU 12名/3名、GCU 7名/2名)

4.どうしてこの研究に参加したか?

自施設の特徴、立ち位置を知ることが出来ることと、他施設と交流することにより、今までとは違う視点からの改善ができるのではないかと考えました。

5.施設・地域のアピール

広島県に二つある総合周産期センターの内の一つです。広島大学医局の関連施設ですが、スタッフは様々な大学医局出身者(広島、神戸、京都府立)で、それぞれの良いやり方を話し合って治療方針を決めています。

看護師は経験年数の多い人が揃っています。また他施設でNICU勤務を経験されている者も数名おり、スタッフ数も平均経験年数も充実していると思います。広島の県民性は“熱しやすく飽きやすい”らしいため、現行の取り組みをこのままのモチベーションで継続していくことができるように、施設全体で協働していきたいと思っています。地方クラブでも、育成、継続、団結により日本一になれるとサンフレッチェが教えてくれました。私たちもがんばります。今年の小児科学会では広島で開催されます。是非いらしてください。

(病棟カンファレンス)多職種の人に参加します。



6.施設担当者から一言

具体的な活動は各分野の担当者が非常に頑張ってくれており、安心して任せています。本部からの情報伝達、他施設の方との連絡、スタッフ内での意識統一、飲み会での挨拶などの仕事に励んでいます。(木原裕貴)



7.看護担当者から一言



“IVHゼロ”“CLD減少”プロジェクトに則り、これまでの看護ケアを振り返りました。そのなかから改善していくべき点をスタッフみんなで見出し、行動計画を立て実践しています。さらに評価へつなげて、これから先の、より赤ちゃんに優しい看護手技方法の統一に向け、1歩1歩着実に進んでいけるよう、スタッフを盛り上げて行きたいと思っています。(西村千絵)

8.看護スタッフから一言

担当者がリーダーシップを存分に発揮してくれており、その頑張りに後押しされるように各スタッフも一緒に取り組んでいます。赤ちゃんのケアについて熱くディスカッションする機会も増えてきて、INTACTに参加して良かったと感じています。これからは実際の成果に結び付くよう、さらに前進していきたいと思っています。(馬場和子)



9.師長から一言

周産期医療の質と安全の向上のための研究に参加して、当初は活動が時間外となり、これはちょっと大変かなと思ったりしましたが、スタッフは患者さんのために自施設の問題点、課題を医師との協働で改善していける絶好の機会ととらえ意欲的に取り組んでくれています。担当者は行動計画をスタッフ全体に分かりやすく提示して、定期的な勉強会も開催できており、看護の質向上につながると確信しています。(岡田美津子)



10.施設長(主任部長)から一言



INTACTに参加することで、みんなのベクトルが同じ方向を向き、担当者たちが、膨大な量の症例振り返りを地道に行ってくれ、自分たちの振り返りを共有でき、次へのステップをふむきっかけができたことがとても有り難いです。今まで以上にスタッフ間の連携が強化されたように思います。振り返り→共有→ディスカッション→ステップアップという連鎖と協働が今後も継続できるように願っています。(福原里恵)

<事務連絡>

●組織評価のアンケートについて

組織の評価に関する質問票を2月12日頃より順次、郵送する予定です。
質問票の返送期限は、質問票の到着から2週間後になりますので、ご協力、宜しくお願い申し上げます。

●2012年度後半分の分担金の消耗品リストの提出について

2月10日締切ですので、ご協力、宜しくお願い申し上げます。

三ツ橋偉子、西田俊彦、佐々木八十子、松田直子
東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
WEB : <http://www.nicu-intact.org>
TEL/FAX : 03-5269-7444(直通)
official MAIL : nicu-intact@boshi.twmu.ac.jp